（学年）第２学年，（教科・科目）国語・現代文 B　　協働学習

（単元）詩「小景異情」

（本時のねらい）
・詩を読んで，書き手の意図や，人物，情景，心情の描写などを的確にとらえ，表現を味わおうとする。（関心・意欲・態度）
・語句の意味，用法を的確に理解し，語彙を豊かにするとともに，文体や修辞などの表現上の特色をとらえる。（知識・理解）

（ICT 活用方法）
電子黒板の活用（①目的②場面③方法）
① 従来では教師による範読や朗読 CD を用いて説明していたが，五音・七音ごとに色分けした本文を提示することで詩の形式やリズムを視覚的に理解しやすくする。さらに，本教材には「ふるさと」「みやこ」という二つの場所が出てくる。作者室生犀星も石川県金沢市から上京し，本作品を執筆したという背景がある。景観や雰囲気がちがう二つの場所を具体的に想起させ比較させるために，大正時代の金沢駅と東京駅の写真を提示する。
② 展開
③ パワーポイントによるスライドの作成

（本時の展開）

| 時間 | 学習活動 | 指導事項 | ＩＣＴ活用方法 |
|---|---|---|---|
| 導入<br>３分 | ・本時の目標を確認する。 | ・ワークシートを確認させる。 | |
| 展開<br>42 分 | 1. 詩の形式，表現の特色を理解する | ・リズムを確認させる。 | ・電子黒板に，七音と五音に色分けした詩を提示する。 |
| | ２. 音読をする<br>・教師による範読の後，全員で音読する。 | ・七五調のリズムに注意しながら情感をこめて読むよう促す。 | |
| | ３. 作者の思いを読み取る<br>・詩の背景を知る。<br>・「ふるさと」「みやこ」に対する作者 | | ・作者の生育歴や，時代背景等の資料を電子黒板を用いて提示する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | の思いを読み取る。<br><br>４．詩の主題を考える<br>・印象に残った箇所を挙げ，詩に込められた作者の気持ちについて，グループで意見を出し合う。<br>・自分にとって「ふるさと」とはどういう場所かを考える。 | ・グループの人と積極的に意見交換するよう促す。<br>・他者の意見と自分の意見を比較し，自分の考えを深めさせる。 | ・望郷の思いを主題とする漢詩「静夜思」や事前にとったアンケートの結果などを例示することで，思考を促す。 |
| まとめ<br>５分 | ・本時の学習内容を振り返る。 | ・詩歌を読むことの意義を伝える。 | |

（授業の様子）

図１使用したワークシート

**詩歌「小景異情」室生犀星**

活動目標　詩を鑑賞して感じたことを伝えよう
①知る　―詩の形式や語句の意味を知る。
②表現する―詩の主題や効果を考える。
③聞く　―他者の意見を聴いて、自分の考えを深める。特に相違点に注目！

HRNO（　　）氏名（　　）

**小景異情**　　**室生犀星**

**ふるさとは遠きにありて思ふもの**
**そして悲しくうたふもの**
**よしや**
**うらぶれて異土の乞食となるとても**
**帰るところにあるまじや**
**ひとり都のゆふぐれに**
**ふるさとおもひ涙ぐむ**
**そのこころもて**
**遠きみやこにかへらばや**
**遠きみやこにかへらばや**

・小景…小さな景色
・異情…特異な感情

・よしや…（　　）

・うらぶれて異土の乞食となるとても
…落ちぶれて外国（＝　　）の物乞いとなるとしても
・あるまじや
打消推量「まじ」＋詠嘆「や」＝「ないだろうよ」

・かへらばや…願望「ばや」＝かえりたい

【確認】この詩の　形式は―（　　）語（　　）調　　）詩
リズムは―（

1　この詩を前半と後半に分けるとすると、どこからが後半か。そう考えた理由も挙げてみよう。

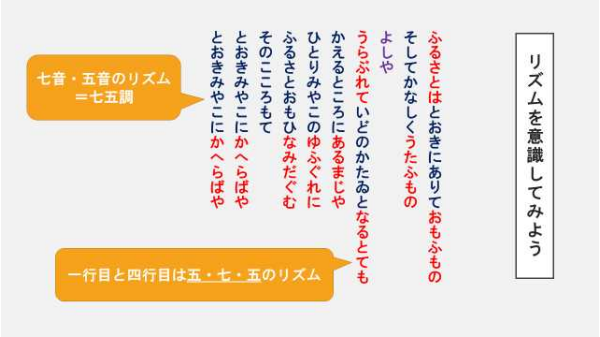
2　「帰るところにあるまじや」とあるが、詩中の人物は今どこにいるのか。

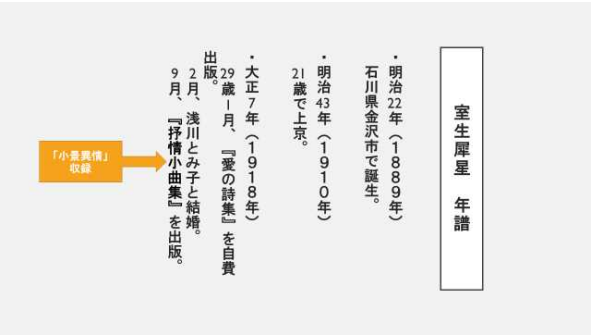
3　「ふるさとは遠きにありて思ふもの」にこめられた作者の思いはどのようなものか。

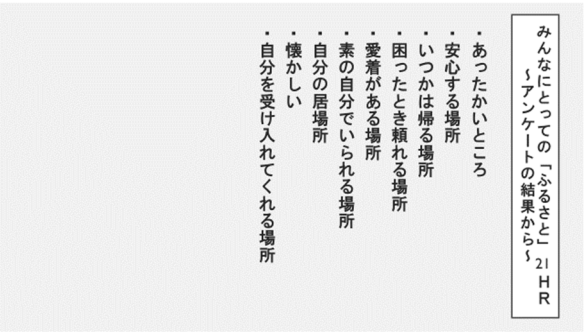
【ふりかえり】
①知る　―詩の形式や語句の意味を知ることができた。
②表現する―詩の主題や効果を考えることができた。
③聞く　―詩から感じたことや考えたことを、話したり書いたりすることができた。
―他者の意見を聴いて、自分の考えを深めることができた。

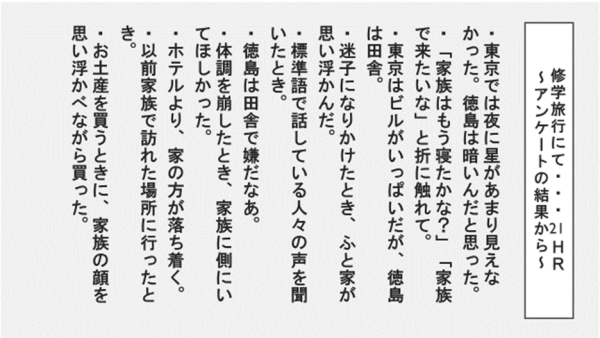
（５．４．３．２．１）　（５．４．３．２．１）　（５．４．３．２．１）

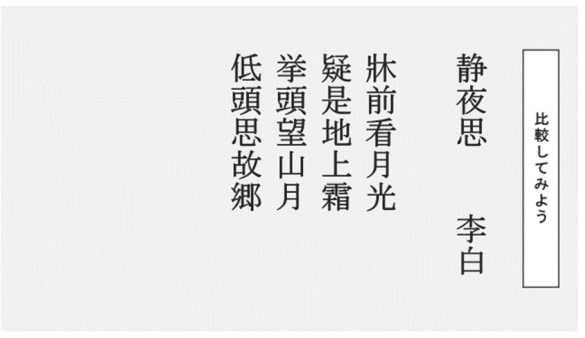
図２　提示したスライド(抜粋)

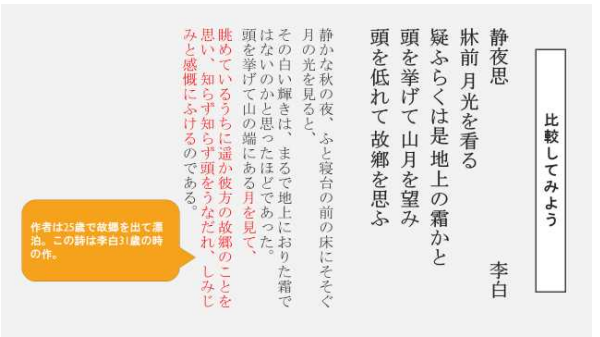




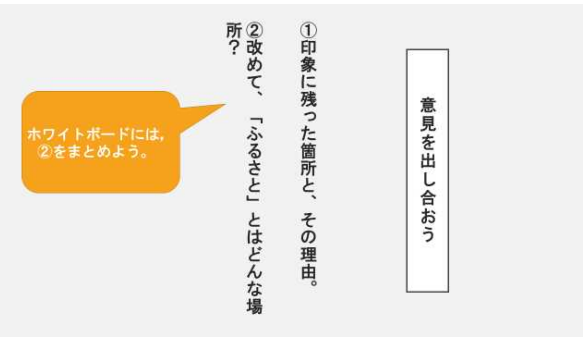



図３生徒の様子

（生徒の反応と課題，改善を要する点）

事前にアンケートを行いその結果を読解の材料にさせたことで，生徒たちは教材を身近に感じることができた。電子黒板を用いて写真資料や色分けした教科書本文などを投影し，教師の範読だけで理解するよりも視覚的にわかりやすかったようだ。生徒によって詩の感じ方や主題の捉え方が違うのがよかった。「他者との相違点を大切に」という，異なる意見を受容する活動目標を入れたことがよかったと思う。

電子黒板の無線接続の調子が悪かったため，前半の数分をロスしてしまった。機器が正常に動かない場合は，これらの資料の提示はどのようにするのかも考えておくべきであった。設定目標は「知る」「表現する」「聞く」という行動目標にした。端的でわかりやすい反面，学習の振り返りをするときには「～できる」という形のほうが分かりやすかったかもしれない。効果的に ICT を活用するためには，綿密な教材研究や指導計画が必要であると痛感した。デジタル教材に頼りすぎるのではなく，適切な場面で生徒たちの活動や思考をより発展させる手立てとなるような活用の仕方を今後も模索していきたい。